

卓 話

平成 27 年 3 月 17 日

『 岐阜市のいじめ問題について 』

岐阜市教育委員会 伊藤智裕様

まずはじめに、いじめとは何かについてお話しします。

いじめについて、文部科学省は画面のように定義しています。

ここで、「一定の人間関係のある者」とは、学校の内外を問わず、例えば、同じ学校・学級や部活動の者、当該児童生徒が関わっている仲間や集団（グループ）など、当該児童生徒と何らかの人間関係のある者を指します。

「攻撃」とは、「仲間はずれ」や「集団による無視」など直接的にかかわるものではないが、心理的な圧迫などで相手に苦痛を与えるものも含んでいます。もちろん、身体的な攻撃のほか、金品をたかられたり、隠されたりすることなども含みます。

しかし、単なる“悪ふざけ”なのか“いじめ”なのか、見分けにくいケースもあります。そのため、周りで見ている子供たちも、先生に報告すべきかどうかを迷ってしまうという場合も多いのです。“いじめ”と“悪ふざけ”の線引きに明確な定義はありません。あくまでも私見ですが、私は次の5つが全てあてはまれば、いじめだと思っています。

- ①相手が嫌がることを反復して行っている・・・「反復性」です。
- ②その行為が、いつも、特定の同一集団内で起こっている・・・「同一集団」です。
- ③行為者に明らかな優位性がある・・・「立場が対等ではない」ということです。
- ④嫌がっていることを分かった上で行っている・・・「故意」
- ⑤1対1ではなく、周りに傍観者がいる・・・「傍観者がいる」ということです。

では、ここからは岐阜市のいじめの状況について、いくつかの数値をご紹介します。どうしても数値をみると、「なんだ、岐阜市は！！」との声があがるかもしれませんが、「いじめは起こりうるもの」です。岐阜県・岐阜市は、全国と比べても認知件数が多いと言われますが、これは、細かい事案まででいねいに拾っているということのあらわれであると認識しています。

京大の正高 信男（まさたか のぶお）教授は、「人類の最大の特徴は、ほめられるにしろ、無視されるにしろ、周りの反応を気にする動物であるということ。それが人類を人類にした特徴」と言っています。人類がまわりの反応を気にして生きる動物である以上、いじめは起こりうるという認識をもって、子どものサインに目と心を配る教員でありたいものです。いじめが多いとか少ないとかの問題ではなくて、いかにきちんといじめを見つけて、それにどう対応したかということの方が問題であって、いじめが多い学校が悪い学校、少ない学校がいい学校というようなことではなくて、いじめはどこにでも、どの学校にでも起こるということで、むしろ積極的にいじめを見つけて、早期発見、早期対応をするといったようなことが大事だということです。

